

| 評 価 項 目  |               | 自 己 評 価  |
|--|---------------|--|
| I<br>教<br>育<br>課<br>程  | 1. 教育目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては学年集会・行事等で、保護者等に対しては保護者会等で教育目標を周知した。</li> <li>・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の目標について、学校説明会（対面・オンライン）の参加者に説明した。</li> </ul>  |
|  | 2. 教育課程の編成    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標に則し、新学習指導要領に沿って編成した教育課程を適切に実施した。</li> <li>・SSH指定校として、教育課程を適切に実施した。</li> </ul>  |
|  | 3. 年間授業日数・時数  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の意義を踏まえ年間授業計画を作成し、必要な授業日数及び時数を確保した。</li> </ul>   |
|  | 4. 教育活動とその成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な成果をあげられるように適切な教育な教育活動を行った。</li> </ul>   |
|  | 5. 行事         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な学校行事の在り方を検討し、適切に実施した。</li> <li>・教育活動全体のバランスを考慮し、教育効果の高い学校行事を適切に配置した。</li> </ul>  |
|  | 6. 進路指導       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路委員会の機能を充実させ、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応の強化に努めた。</li> <li>・大学入試の変更や外部検定試験導入、共通テスト関係のデジタル化に関する情報発信を教員と生徒の双方に適切に行い対応を円滑に進めることができた。</li> <li>・筑波大学附属高等学校との合同キャリア事業の企画・運営を行うことができた。</li> <li>・学年に対応するキャリア教育実施の補助を行うことができた。</li> </ul>  |
|  | 7. 研究・研修      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH指定校(第Ⅱ期2年目)として、研究開発に取り組んだ。</li> <li>・校内研修会を実施し、教育実践に活かした。</li> <li>・大学と連携し、授業研究等を進めた。</li> <li>・教員研究費を有効に活用し、研究活動の活性化を図った</li> </ul>  |
|  | 8. 帰国・国際教育    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月にスウェーデンのトンバ高校から1名、5月に台北市立第一女子高級中学から32名生徒を受け入れた。</li> <li>・7月中華基督協会何福堂書院の生徒36名を受け入れ、授業見学・文化部との演奏交流を行った。</li> <li>・10月に台湾研修を実施し、2年生32名が参加した。台北市立第一女子高級中学や台湾大学等を訪問し、現地の学生との交流を行うことができた。</li> </ul>  |
|  | 9. 自治（会）活動の指導 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちの創意工夫を生かした自治会行事運営を支援し、生徒たちの自治意識を高めるよう適切な指導・助言を行った。</li> <li>・自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう指導・支援を行った。</li> </ul>  |
| その他  |               |  |
| A<br>普<br>通<br>教<br>育<br>を<br>行<br>う<br>学<br>校<br>園<br>と<br>し<br>て | 1. 経営・組織      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、勤務時間の適正化に努めた。</li> <li>・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。</li> <li>・企画運営委員会を31回開催(1月末時点)し、運営体制のあり方や業務内容の検討を行い、円滑な学校運営に努めた。</li> <li>・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えるよう努めた。</li> </ul>  |
|  | 2. 出納・経理      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金(運営基金)・諸費用などの予算執行を適切に進めた。</li> <li>・SSH予算を適正かつ効果的に運用した。</li> </ul>   |
|  | 3. 施設・設備      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・用務員室の改修を実施し、校舎1階に外から直接入庫できる防災備蓄品収納用倉庫を設けた。</li> <li>・空調設備を備えた体育館改修の概算要求に向けて、校内で検討を進めるとともに、施設課と話し合いを行った。</li> <li>・教育後援会の協力により、部活動や行事の運営に必要な備品の購入を行うなど、教育環境の整備・改善に努めた。</li> </ul>   |
|  | 4. 健康         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画に基づき、生徒の健康保持・増進に努めた。</li> <li>・生徒の健康の保持・増進のために、教員全体の情報共有と共通理解を推進し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校医、担任団との連携をはかり、個別の状況に即した健康相談および支援を行った。</li> <li>・自身の健康課題に主体的に取り組むことのできる生徒を育成するため、保健学習や保健指導などの健康教育の充実を図る。特に睡眠をはじめとする生活習慣やメンタルヘルスリテラシーの向上に取り組んだ。</li> </ul>  |
|  | 5. 安全         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。</li> <li>・学校安全計画に基づき、生徒の安全教育を行った。</li> <li>・防災設備を確認し、防災用品の在庫確認と補充に努め、用務員室の改修により設けられた防災備蓄品収納用倉庫に、災害時を想定して機能的に配置した。</li> <li>・4月と11月に防災訓練を実施し、「東京防災」および「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用して、安全管理や危機意識に関する指導を適切に行った。</li> <li>・改訂したいじめ防止基本方針に基づき、生徒の人権研修や教員研修を実施し、いじめの未然防止や早期発見に向けて組織的な対応を行った。</li> </ul>  |
|  | 6. 情報         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境の安定した運用に努めた。生徒端末の増加に伴い、引き続き校内ネットワークの増強・改善に努める。</li> <li>・ICT支援員と協力し、ICT機器の適切な運用・管理に努めた。</li> <li>・教員間の情報共有や連絡等、学校内の連絡のデジタル化を進めた。</li> </ul>  |
|  | 7. 開かれた学校     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・77件(1/30現在)の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。</li> <li>・6月(対面)及び9月～3月(オンライン)に学校説明会を開催した。関東圏外からの参加も見られた。(参加者数:6月322組(679名),総視聴回数:1307回;1/30現在)</li> <li>・保護者授業参観を11月に実施した。(参加者数:171名)</li> <li>・8月に第27回中学生向け理数一日体験授業を実施した。6講座を開講し、104名の中学生が参加した。</li> <li>・学校評議員会および学校関係者評価委員会を7月・2月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。</li> </ul> |
|  | 8. 入学検定       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学検定に関する諸課題について再検討を行い、より公正・適切に実施できた。</li> <li>・入試問題作成において、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。</li> </ul>   |
|  | 9. 保護者等との連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等と学校間の連絡が適切に行われるよう努めた。</li> <li>・各部の活動を厳選し、委員の選出の簡素化を行うなど、PTA活動の効率化を図った。</li> <li>・PTAと教育後援会とのスムーズな連携が行えるよう、7月に懇談会を実施した。</li> </ul>   |
| II<br>学<br>校<br>運<br>営   | 1. 経営・組織      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、勤務時間の適正化に努めた。</li> <li>・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。</li> <li>・企画運営委員会を31回開催(1月末時点)し、運営体制のあり方や業務内容の検討を行い、円滑な学校運営に努めた。</li> <li>・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えるよう努めた。</li> </ul>  |
|  | 2. 出納・経理      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金(運営基金)・諸費用などの予算執行を適切に進めた。</li> <li>・SSH予算を適正かつ効果的に運用した。</li> </ul>   |
|  | 3. 施設・設備      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・用務員室の改修を実施し、校舎1階に外から直接入庫できる防災備蓄品収納用倉庫を設けた。</li> <li>・空調設備を備えた体育館改修の概算要求に向けて、校内で検討を進めるとともに、施設課と話し合いを行った。</li> <li>・教育後援会の協力により、部活動や行事の運営に必要な備品の購入を行うなど、教育環境の整備・改善に努めた。</li> </ul>   |
|  | 4. 健康         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画に基づき、生徒の健康保持・増進に努めた。</li> <li>・生徒の健康の保持・増進のために、教員全体の情報共有と共通理解を推進し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校医、担任団との連携をはかり、個別の状況に即した健康相談および支援を行った。</li> <li>・自身の健康課題に主体的に取り組むことのできる生徒を育成するため、保健学習や保健指導などの健康教育の充実を図る。特に睡眠をはじめとする生活習慣やメンタルヘルスリテラシーの向上に取り組んだ。</li> </ul>  |
|  | 5. 安全         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。</li> <li>・学校安全計画に基づき、生徒の安全教育を行った。</li> <li>・防災設備を確認し、防災用品の在庫確認と補充に努め、用務員室の改修により設けられた防災備蓄品収納用倉庫に、災害時を想定して機能的に配置した。</li> <li>・4月と11月に防災訓練を実施し、「東京防災」および「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用して、安全管理や危機意識に関する指導を適切に行った。</li> <li>・改訂したいじめ防止基本方針に基づき、生徒の人権研修や教員研修を実施し、いじめの未然防止や早期発見に向けて組織的な対応を行った。</li> </ul>  |
|  | 6. 情報         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境の安定した運用に努めた。生徒端末の増加に伴い、引き続き校内ネットワークの増強・改善に努める。</li> <li>・ICT支援員と協力し、ICT機器の適切な運用・管理に努めた。</li> <li>・教員間の情報共有や連絡等、学校内の連絡のデジタル化を進めた。</li> </ul>  |
|  | 7. 開かれた学校     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・77件(1/30現在)の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。</li> <li>・6月(対面)及び9月～3月(オンライン)に学校説明会を開催した。関東圏外からの参加も見られた。(参加者数:6月322組(679名),総視聴回数:1307回;1/30現在)</li> <li>・保護者授業参観を11月に実施した。(参加者数:171名)</li> <li>・8月に第27回中学生向け理数一日体験授業を実施した。6講座を開講し、104名の中学生が参加した。</li> <li>・学校評議員会および学校関係者評価委員会を7月・2月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。</li> </ul> |
|  | 8. 入学検定       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学検定に関する諸課題について再検討を行い、より公正・適切に実施できた。</li> <li>・入試問題作成において、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。</li> </ul>   |
|  | 9. 保護者等との連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等と学校間の連絡が適切に行われるよう努めた。</li> <li>・各部の活動を厳選し、委員の選出の簡素化を行うなど、PTA活動の効率化を図った。</li> <li>・PTAと教育後援会とのスムーズな連携が行えるよう、7月に懇談会を実施した。</li> </ul>   |

|  |                |  |
|--|----------------|--|
|  |                | <p>10. 学年活動</p> <p>1 学年<br/> ・高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣、学習習慣を確立できるよう支援した。<br/> ・学校行事や委員会・部活動などを通して、自主・自律の精神および他者と協働できる態度を養うことができた。<br/> ・学習の取り組みに関する指導を定期的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。<br/> ・キャリア教育の推進によって幅広い進路を考えられるよう支援した。</p> <p>2 学年<br/> ・基礎学力の定着を図るとともに、発展的な学習や探究的な学習を通して、学力の向上を図った。<br/> ・進路・キャリア教育を充実し、自己の適性や興味・関心を深く考えさせ、自己実現可能な進路選択を支援した。<br/> ・特別活動などの諸活動において、主体的に取り組み協働して目標を達成できる人材を育てよう努めた。<br/> ・自律した生活習慣の確立を目指し、安定した学校生活を送るよう促した。</p> <p>3 学年<br/> ・自主的に応用・発展的な学習に取り組むことにより、学力のさらなる発展・充実を目指すように指導・支援した。<br/> ・生徒がこれまでに身につけた知識・技能を活かし、自己実現に向かって計画的かつ主体的に進路選択を行えるように指導・支援した。<br/> ・学校生活の様々な場面において、最高学年として相応しい態度や行動がとれるように指導した。<br/> ・自律した生活習慣によって、学校生活を心身ともに健康に過ごせるように促し、支援した。</p> |
| I<br>B<br>大学との連携<br>大学の附属校<br>園として<br>II<br>社会貢献 | 1. 連携研究        | ・高大連携特別教育プログラムの円滑な実施に努力し、高大連携の学校設定科目「課題研究入門」の運用、「キャリアガイダンス」、「校長面談」、「公開授業」に取り組んだ。「課題研究入門」は、一部授業を学外へ公開し、開かれた学校づくりに努めた。<br>・「課題研究入門」は計画通り10回実施し、様々な分野の講義を提供し、生徒がより有機的に学ぶことができた。<br>・大学の公開授業をのべ84名（履修：29名、聴講：55名）の生徒が受講した。<br>・「選択基礎」を9名（文教育学2名、理学部4名、生活科学部3名）が受講し、特別選抜で8名がお茶の水女子大学に進学することになった。<br>・附属高校生向けキャリアガイダンスを1年生を対象に3月に行った。<br>・「課題研究支援プログラム」を3年生16名、2年生26名が受講した。<br>・コンピテンシー育成開発研究所と連携をはかり、大学及び附属学校園間の連携研究を進めた。<br>・京都大学や東京科学大学、筑波大学等との高大連携教育を進めることができた。<br>・筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携プログラムを継続した。<br>・昨年度大学に依頼のあった研究調査1件について、引き続き調査協力した。   |
|  | 2. 授業交流        | ・大学教員による本校生徒への授業等、大学との交流を適切に行うよう努めた。<br>・附属間相互の授業交流や内容の共有に努めた。   |
|  | 3. 教育実習        | ・前期27名、後期22名の教育実習を行い、教科指導の専門性の向上、教員として必要な資質・能力の育成を促した。今後さらなる改善及び充実を図る。<br>・教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう努めた。<br>・教職実践演習の一環として、授業参観を10月に行った。   |
|  | 4. 専門委員会       | ・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。   |
|  | 5. 大学の講義担当     | ・5教科7名の教員が教科教育法の授業を担当し、教員養成プログラムの充実協力した。<br>・教科教育法以外の授業を3名の教員が担当した。  |
|  | 6. インターンシップ    | ・インターンシップの学生を学部から1名受け入れた。  |
|  | その他            |  |
|  | 1. 授業参観研修生の受入れ | ・外部からの授業参観・学校訪問等を19件（1月末時点）受け入れた。  |
|  | 2. 公開教育研究会開催   | ・6月に公開教育研究会を実施し、SSHを含む教育活動の成果を発信した。<br>・6月にノーベル化学賞受賞者・野依良治先生による講演「未来社会を担う若い世代へ」（お茶の水女子大学創立150周年記念講演）を実施した。<br>・7月にSSH構想研究会、10月に中間発表会、3月に成果発表会を実施し、探究的な学習の取り組みを発信した。  |
|  | 3. 初任者研修・現職研修  | (2025年度該当なし)   |
|  | 4. 海外視察        | ・台湾大学国際事務局(2名)、中華基督協会何福堂書院(4名)、湖南大学(1名)の視察を受け入れた。  |
|  | 5. 出版活動        | ・研究紀要第70号を7月に適切な内容で発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。<br>・SSH指定校として、実施報告書、生徒研究成果集を作成した。また、附属学校園「教材・論文データベース」を充実させた。   |
|  | 6. 各種研究会への協力   | ・講師等派遣依頼が2件あった。<br>・学内外の研究会等に積極的に参加した。   |
| その他  |                |  |

2025年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 教育課程の編成(A-I-2)

- ・教育目標に即し、新学習指導要領に沿って編成した教育課程を適切に実施する。
- ・SSH指定校として、教育課程を適切に実施する。  
⇒ 新学習指導要領に沿って学習評価を適切に実施するとともに、SSH指定校(Ⅱ期2年目)として引き続き学校設定教科「課題研究」、数学・学校設定科目「数学探究」の開発に取り組んだ。

2. 進路指導(A-I-6)

- ・進路委員会の機能を充実させ、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を引き続き強化する。
- ・大学共通テストの出願方法変更に関する情報発信を教員と生徒の双方に適切に行い、対応を円滑に進められた。

3. 研究・研修(A-I-7)

- ・SSH指定校(Ⅱ期2年目)として、研究開発に取り組む。  
⇒ SSH指定校(Ⅱ期2年目)として研究開発に取り組んだ。  
3年連続SSHコーディネーター事業に採択され、SSH指定校との連携や大学・他機関との連携が拡充し、課題研究成果の発信活動が一層充実した。

4. 施設・設備(A-II-3)

- ・教育環境の整備・改善に努める。  
⇒ 教育後援会の協力により、部活動や行事の運営に必要な備品の購入、体育館用冷風機レンタルを行うなど、教育環境の整備・改善に努めた。

5. 安全(A-II-5)

- ・大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努めた。  
⇒ 改訂したいじめ防止基本方針に基づき、生徒の人権研修や教員研修を実施し、いじめの未然防止や早期発見に向けて組織的な対応を行った。

6. 連携研究(B-I-1)

- ・高大連携特別教育プログラムの円滑な実施に努力するとともに、「課題研究入門」の運用や「キャリアガイダンス」、「校長面談」、「公開授業」に取り組む。  
⇒ 「課題研究入門」は昨年度に引き続き一部授業を学外へ公開し、開かれた学校づくりに努めた。